

会議録

会議の名称	平成30年度第3回西東京市産業振興マスタープラン推進委員会
開催日時	平成30年8月24日（金曜日）午後2時から午後3時40分まで
開催場所	保谷 防災センター6階 講座室2
出席者	委員：松川紀代美委員 川橋宏一委員 大河内一紀委員 浅川絢子委員 村田秀夫委員 伊勢佳弥子委員 事務局：五十嵐産業振興課長 小菅主幹 小池主事 コンサルタント：梵まちづくり研究所 吉田 黒丸 福澤
議題	議題1 中期計画の委員評価の報告 議題2 ヒアリング調査等の結果報告 議題3 後期計画素案の作成に向けた方向性について
会議資料の名称	次第 第2回 西東京市産業振興マスタープラン推進委員会 会議録（案） 資料1 中期計画二次評価（委員評価）の結果概要 資料2 事業者ヒアリング・アンケート調査 記録集 資料3 事業者ヒアリング・アンケート調査結果のまとめ 資料4 消費者インタビュー調査結果のまとめ 資料5 産業振興マスタープラン後期計画の考え方
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○副会長： 本日の欠席は、中庭委員、本橋委員、伊東委員の3名である。 定足数に達しているため、第3回産業振興マスタープラン推進委員会を開会する。</p> <p>《傍聴者確認 傍聴者なし》</p> <p>《配布資料の確認》</p> <p>2 第2回会議録（案）の承認</p> <p>○事務局：《会議録（案）の説明》 事前に委員の皆様へ送付させていただいた。ご指摘いただいたとおりに修正し、公開する。</p> <p>《会議録（案）の承認》</p>	

3 議題

議題（1） 中期計画の委員評価の報告

○コンサルタント：《資料1に沿って説明》

○副会長：

ただ今の説明内容について、ご意見又はご質問を求める。

○副会長：

ご意見等がなければ、委員会での多数意見としてご異議ないものとしてよろしいか。

○A委員：

副会長の発言を受け、資料1を委員会の総意として採用するのであればお願いしたい。私は理由があり委員評価に回答しなかったのだが、「委員が評価すること自体がおかしい」といった意見があったことを明記していただきたい。学識経験者枠で出席している以上、その点は譲れない。

○事務局：

ご意見は承りました。

議題（2） ヒアリング調査等の結果報告

○コンサルタント：《資料2～4に沿って説明》

○事務局：

5年前に中期計画を策定する際にも事業者ヒアリングを行っており、この5年間でのご意見等の変化について、3点ほど補足させていただく。

1点目は、消費やマーケットという視点から、人口が増えていることに関連したご意見が見られた。昨年4月に人口が20万人を超え、事業者の方には今後の可能性と受け止められている。また、単に、消費の増加だけでなく、人とのつながりや人脈に係わるご意見も多かった。

2点目は、利便性についてである。この5年間で駅前開発が行われ、南北の幹線道路が整備されたことで、人の流れが変わり、利便性が向上したことに関連したご意見が見られた。

3点目は、今後の展開についてのご提案が増えたことである。行政に期待するご意見だけでなく、事業者自身がこうしたい、こういうことをやればまちの活性化につながるのでは、といった非常に主体的なご意見を多くいただいた。起業・創業支援を戦略的に行ってきたことで、既存事業者への相乗効果もあったのではないかと感じている。

○副会長：

ただ今の説明について、ご意見等を求める。

○B委員：

消費者インタビューは、ハンサムママフェスタの会場で実施されており、子育て世代が対象となっている。子育て世代だけでなく高齢者も増加しているので、西東京市を理解するためには、いろいろな世代を対象にアンケートをとる必要があるのではないか。

○事務局：

ご指摘のとおりである。この委員会の中で消費者のニーズはどうか、というご意見があったことから、限定的な対象ではあるが調査を実施した。他にも、庁内で実施した他の調査等から、消費についてご提示できるデータがあれば、情報提供させていただきたい。

○A委員：

委員会の資料として、こういう意見があった、ということを示すだけでなく、ストーリーを出していくべきではないか。また、どの意見がどこに反映されたかを丁寧に説明していただきたい。

また、B委員のご発言に関わるが、商工会では過去に事業者調査や利用者調査を実施されている。ただ、手法が少しくラシカルであり、消費者の満足度や市民の消費指向を導き出すのは難しいだろう。私は、西東京市のことは素人であるので、まちの人たちの声を聞かないと、当事者の皆さんの本意を踏まえた計画にならないと思う。

○事務局：

ストーリーについてだが、ヒアリングやインタビューの声を反映しながら計画を取りまとめていかないと、生きた計画にならないと考えている。しかしながら、この部分についてはこの意見が、という整理にまでは至っていない。今後の整理の中で組み立てていきたい。また、この計画が策定されることで、まちの中に何が起きるのか、という視点は外さないように、事務局の中でも常に議論しているところである。

産業分野は速いスピードで動いており、トレンドやニーズも変わってくる。本日欠席の委員からも、動きが速い中で、まちのニーズを捉えていく仕組みを考えるのも大事だ、というご意見をいただいている。計画を策定するにあたり、事業者や利用者の声を踏まえてまとめていくが、この先のニーズ変化を捉えていくことも重要である。計画策定後の声を聴く仕組みづくりも、必要だと思う。この点についても、皆さまからもご意見をいただきたい。

○A委員：

事業者ヒアリングについて、5年前と比べて主体的な意見が増えたということだが、事業者自体の成熟性や慣れがないと、そういう意見は出てこないだろう。ヒアリングでご意見を聞いた方々をベースにして、創業事業者懇談会のような場を立ち上げてはどうか。自分自身で一発奮起して事業を始めた人たちと、行政による起業・創業支援の追い風を受けて始めた人とは温度差があると思う。また、今後のブームに乗って起業していく人たちもまた違うだろう。一店逸品事業に参加している事業者とハンサムママプロジェクトの参加者を分ける必要はなく、どのタイミングに事業を始めたかでグループ分けすると良い。

○事務局：

事業者ヒアリングのグループ分けを、事業者の考え方やモチベーションで分けるというご意見だったが、計画策定後に事業を進めていく段階では、そのような視点が重要になっていくと感じている。委員の皆さまからも、それぞれのお立場でこういう方と話すいろいろな発想が出る、組織としても相乗効果が出る、というご意見をいただきたい。

○C委員：

高齢者が多いというご意見があったが、個人的にはワンルームマンションが増えており、単身者が増えていると感じている。また、売る人よりも買う人の意見、学生のように4年間で去っていく冷めた目での意見も大事だと思う。

○事務局：

世帯構成だが、西東京市はファミリー世帯が多い。うち子どもがいる世帯が4割を占める。高齢者の単身者もいるが、若い世代の単身者も多いので、その点も注目する必要がある。単身者のニーズへの対応については、ハード整備の面も含めて、事業主体を見極めながら冷静に判断していきたい。消費の歩留まりにつながる要因など、ニーズをどのように捉えていくかが大事である。

○D委員：

資料4について、アンケート結果では地域の小規模店を利用している人が25%となっている。ただ、アンケートを実施した場所がアスタであり、アスタ自体の構成が小規模店であるので偏った結果なのではないか。また、消費者から見ると、アスタはスーパー等大型店という認識になる。商店街等にあるような小規模店の利用はもっと少ないのではないか。アスタ内の小規模店とその他の小規模店は分けてデータ解析してほしい。

○事務局：

参考にさせていただく。逆にお伺いしたいが、小規模店に対してのニーズや魅力、可能性などを教えていただきたい。

○D委員：

地元の小規模店に頑張してほしいと思っている主婦層は多い。ただ、現実的には、まずは「近さ」が優先される。小規模店の売上を伸ばすために子育て世帯に来てもらいたいなら、自転車を停めるスペースがあったり、自転車に乗ったまま買い物できるなどができれば可能性があるかと思う。

○B委員：

主婦としては大きくて近いところが買物しやすい。近所にある八百屋は、比較的賑わっているが、自転車を停めるスペースがない。駐車場・駐輪場を整備することは大事だと思う。

駅近くの大型店は単身者の利用者が多いため、品揃えが単身者向けで、ファミリー層は買物しづらい。地元農産物などを生産者の顔写真入りで販売するなどがあれば、安心

して購入できる。家族のために安心して買えるような品揃えが十分ではない。

○事務局：

まちのニーズを捉えて事業が生まれることを消費者も望んでおり、あらゆるサイズの事業が今後も可能性があると考えている。消費する側、事業する側の両方を見立てて、つなぐべき方をつないでいくことが必要である。また、農業者が総合プロデュースして販売まで行うのは実際難しいため、農業者と販売者の間をつなぐ取組みも重要であり、そういうニーズがあることを理解した。

○A委員：

B委員のご意見に関して、総菜が家族向けに販売されていたら利用されるかどうか、主婦の立場としてお聞きしたい。今後、八百屋等の事業展開の上でポイントになる視点だと感じている。西東京市の場合、今後も単身者アパートが増えるかもしれないが、私鉄沿線は住宅開発を主としているのでファミリー層が減ることはない。商売のあり方の選択肢として出てくるのではないかと思う。

○B委員：

仕事帰りの母親が唐揚げを数パック買う姿を見かけることはあるが、日中買物できる専業主婦が唐揚げを買う姿は見ない。一般的に、「出来合いの総菜はよくない」というイメージがあり、ファミリー向けの総菜はニーズが少ないだろう。

○副会長：

委員のご意見等を含めて事務局で整理していただくこととして、次に進みたい。

議題（3） 後期計画素案の作成に向けた方向性について

○事務局：《資料5に沿って説明》

説明に入る前に大きな視点を2点ご説明したい。

柱の部分については、基本的には中期計画を踏襲する形であるが、この計画によって市民や事業者にどのような効果がもたらされるのか、というご意見を踏まえ、「まちづくり」という表現で整理した。産業分野の計画ではあまり用いる表現ではないが、生きた計画となるよう、まちづくりという視点で整理した。また、事業者ヒアリングなどとおして分野横断的に捉えなければならぬことが見えてきたため、全体の事業を連携させることで相乗効果を生み出す視点を追加する形で整理した。

○副会長：

ただ今の説明について、ご意見又はご質問を求める。

○C委員：

地元農産物を利用したいというご家庭は多い。一方、西東京市の農業は多品種少量生産であり、売る場所を確保することが難しく、農産物ができない時期もある。JAが主体となり、商店会も協力して地元農産物を販売していくことは良いと思う。また、農産

物ができない時期があることを、消費者に理解していただくことも大事である。商店会とJAが連携して販売することで、農業者もやる気が出るのではないか。商店会としては協力していきたい。

○事務局：

JAと商店会の連携による販路の拡大は重要だと感じている。地元農産物を置いているスーパーもあるが、まだ少ない。市では、これまでに他市の視察なども行っているが、地元農産物を販売する八百屋が地元主体の応援の中でできた、という事例も多摩地域で見えてきた。それぞれを「つなぐ」というのが行政のミッションだと思う。農業者のやる気やモチベーションが大事であり、農地のあり方が法改正で大きく変わる中で持続可能な農業経営を実現するために、まちのニーズと合うところをつなげていくことが重要だと考えている。市民意識調査でも、地産地消の重要度や満足度は年々上がっている。

○副会長：

農業者の立場としては、生産と販売を両方行うのはかなり負担であり、販売の方で手を抜かざるを得ない。JAや商店会が販売を請け負ってくださると大変ありがたい。近年の高温多湿の中では、良質な生産をすることが困難になってきている。商品が店頭に並ばない可能性など、消費者にも農業や農業者に対する理解を深めていただきたい。

○A委員：

前回いただいた資料から、今回ベクトルがはっきりしたと思う。方向性の1や3などは目的と手段の関係が明確になるよう表現を直した方が良い。また、農業については、付加価値のところまで目指す、というところまで書けば、他の都市部にはないアピールになるのではないか。

1点、農業の部分で「まちの魅力としての価値」という意味が分からないが、緑化のことを指しているのか。

○事務局：

「農業・農地の持つ多面的な機能」という表現がある。国でも「多面的な機能」を掲げており、まちづくりの視点での魅力ということで理解を進める必要がある。農業振興計画の中でも、農地は「産業の場」として捉えており、持続可能な農業を実現した上で、副次的に農地が残る、という考え方である。

○A委員：

方向性の表現の中に、他にも「魅力ある個店」など「魅力」という言葉が数箇所使われているので、工夫した方が良い。また、事業の整理については、例えば「直売所の魅力充実」は交流の促進の方に入れて、逆に「市民農園の新しい展開」を農地の保全の方に移すなど、さらに工夫の余地があるのではないか。

○事務局：

各方向性について現行2行ほどのリード文があるが、当初はもう少しボリュームがあった。ただ、メッセージ性を設けるには、言葉足らずのところも出てくるかもしれない

が、直球というか、より明確にした方が、何をしたいのかがはっきりするのではないかと考え整理した。表現については、今後ブラッシュアップしていく。また、事業についても、今後引き続き整理が必要と考えている。

○副会長：

他にご意見等はないか。

特にないので、素案の作成に向けた方向性については、以上とする。

○事務局：

最後に、関連した情報を2点報告したい。

同時並行で動いている農業振興計画だが、市民や農業者の方を対象としたアンケートやヒアリングが間もなくまとまってくる段階である。産業振興マスタープランの方向性1が農業分野となるが、次回委員会で、農業振興計画に関する情報を提供できると思う。大きなシフトチェンジがあるとは考えていないが、整合性をとって取りまとめていく。

総合計画の見直しについては、すでにパブリックコメントを終え、中間とりまとめとしての素案が出てきている。来週から第3回定例会が行われ、内容に関する部分の素案が議案として上程される。次回委員会では、関連する部分を抜粋してご提示できると思う。

なお、総合戦略事業は、総合計画に包含されていくことになる。

4 その他

○事務局：

《会議録案は、メールにて各委員へ送信》

《次回委員会資料は、約1週間前までに郵送》

《次回委員会は10月12日（金）午前10時より、防災センター講座室2にて開催》